



鴻巣西中通信

学 校 だ よ り

鴻巣市立鴻巣西中学校
鴻巣市大間1161番地
令和4年10月3日

第6号

「徳は孤ならず、必ず隣あり。」

～武道館完成から30年。長年、西中生を見つめ続けてきた言葉～

校 長 服部幸司



令和4年9月29日(木)～10月1日(土)、新人兼県民総合スポーツ大会北足立北部班大会が開催されました。昨年度は新型コロナウイルスの感染状況から行うことができませんでした。今年度は保護者観戦には制限があったものの、生徒達に普段の練習の成果を発揮する場を提供することができ、ほっとしているところです。

私も毎日放課後、体育館からテニスコート、校庭、最後は武道館と各部活動の様子を見学します。先日、本校武道館で改めて目に飛び込んできたのが、「徳不孤必有隣」です。これは『論語』の中

にある言葉で、右から「徳は孤ならず、必ず隣あり」と読みます。現代語訳すると「徳ある人は孤立することはない。必ず理解者と助力者が集まる。」となります。

本校武道館完成は、平成4年3月26日と記録にあります。いつからこの額が飾られたかは不明ですが、長年、この言葉が西中生を見つめてきたことは確かです。

今も昔も、中学校時代というのは、「人間関係」を学ぶ最も大切な時期です。特に部活動では、上級生・下級生の関係もあり、様々な気遣いや言葉遣いを学ぶ場でもあります。そんな中で、自分の気持ちが相手に通じなかったり、やること為すこと裏目に出て、周りから誤解を受けたり…。孤独を感じ、心が折れそうになった西中生も数多くいたはずで

「この額」の目の前で、笑顔を交^{まじ}えながらも懸命に球を打ち合う男子卓球部。面の奥にはしっかりマスクをしながらも、「メェーン」「ドォー」「コテー」と大きな声で稽古に励む剣道部。コロナ渦の中、様々な制約の中でも、『一生懸命に取り組む姿』には心を動かされます。正(まさ)に私も「理解者」になるのです。

今年5月、3年生国語、『論語』の授業。渡邊順子教諭の凛とした範読、続く生徒達の音読。「学びて時に之を習ふ。亦(また)説(よろこ)ばしからずや。朋(とも)遠方より来たる有り、亦楽しからずや。人知らずして温(うら)みず、亦君子ならずや」→現代語訳「三文省略。他人が自分を認めてくれないからといって不平不満を言うことはありません。なんと徳のある人ではないでしょうか。」

『他人が認めてくれなくても、一生懸命頑張り続けると、必ず応援してくれる人が集まってくるよ!』と、「この額」とともに私は今、西中生に語りかけたのです。



2年生体育授業(剣道、武道館にて)
武道館後方が『徳は孤ならず、必ず隣あり』